

発生抑制

再使用

資源再生

# 3Rの取り組みの成果

## 循環型社会の形成を目指して

市は循環型社会の形成を目的に、平成22年度から廃棄物の3R（発生抑制・再使用・資源再生）への取り組みを進めてきました。特に、ごみの新分別では1年が経過し、市民の皆さんのご理解とご協力によって大きな成果が顕著に表れています。

今回は、その成果を報告するとともに、今後の新たな取り組みについてご紹介します。

### 成果1 資源化率の向上

資源化率とは、廃棄物の総排出量のうちリユース・リサイクルされた廃棄物の割合を示し、循環型社会の形成の指標となっています。

その資源化率では、ごみの総排出量が前年比6.5%の減少、総資源化量が34.1%増加したことに伴い、平成23年度の根室市の資源化率は24.5%と飛躍的に伸びています。

根室市の資源化率は、環境省の基本方針で示されている24.0%以上を超えるとともに、平成21年度の全道平均18.9%も上回る結果となり、10年後の目標となる28.8%に着実に近づいています。

#### 根室市の資源化率の推移

平成20年度 (実績)	平成21年度 (実績)	平成22年度 (実績)	平成23年度 (見込み)	平成31年度 (目標)
9.9%	10.5%	17.1%	24.5%	28.8%
全道35市中 34位	全道35市中 32位	全道35市中 27位	全道35市中 11位	—

### 成果2 ごみ埋立処理場の延命化

ごみ埋立処理場の延命化の当初目標は、平成28年度まで3年の延命を目標に掲げていました。しかし、

「燃やせないごみ」の排出量が、新分別前の平成20年度の年間搬入量8,759 tに対し、平成23年度の見込みは61.0%減の2,996 tとなり、すでに10年後の目標である3,403 tを下回る結果になりました。

予想以上に燃やせないごみの搬入量が減少し、このまま経過することによって、今後48年間は現在の施設を使用できる試算結果となりました。この成果を金額に換算すると、現在の埋立処理場が15年計画で約20億円の建設費を要していることから、3施設分に相当する約60億円以上の節税が図られることとなります。

#### 根室市ごみ埋立処理場搬入量の推移

平成20年度 (実績)	平成21年度 (実績)	平成22年度 (実績)	平成23年度 (見込み)	平成31年度 (目標)
8,759 t	7,481 t	4,639 t	2,996 t	3,403 t

### 成果3 ごみに対する意識の向上

資源化率を向上させるためには、「ごみを発生させない努力をする」⇒「ごみが発生したらできるだけ資源にする」⇒「どうしても資源にできないごみを排出する」という循環型社会形成の思想が不可欠です。

分別の不備による未回収件数も、新分別がスタートした平成22年10月には4,565袋であったものが、平成24年1月には800袋と約6分の1となり、新分別が着実に浸透しています。しかし、いまだに燃やせないごみにプラスチック製容器包装や廃プラスチックが混入していたり、プラスチック製容器包装と発泡トレイが一緒になっているなどの不備がみられます。

根室市の資源化率が飛躍的に向上した要因は、何といても市民皆さんの日々の努力によるものです。今後も循環型社会の形成のため、正しい分別へのご協力をお願いします。



前処理破砕機

### 前処理破砕施設の整備

今年3月、ごみ埋立処理場敷地内に前処理破砕施設を建設し、さらなる廃棄物の資源化および減量化を目指しています。

従来、手作業で行っていた切断処理の効率化を図るとともに、廃プラスチック類を焼却できる大きさに破砕することで、埋立処理場への搬入量が減少します。

事業費 97,209,000円  
 施設概要 上屋 鉄骨造平屋建480㎡  
 破砕機 切断機0.72 t/日 たたみ、布団、じゅうたん等の切断  
 二軸破砕機1.69 t/日 木製家具・魚箱等の破砕  
 仮置ヤード 100㎡

## さらなる目標への取り組み

### 廃棄物の掘り起こしで延命化

埋立処理場にすでに埋め立てられている廃棄物を掘り起こし、さらなる延命化を図ります。

作業行程 廃棄物の掘り起こし ⇒ 洗浄 ⇒ 選別(焼却ごみ・資源ごみ) ⇒ 破砕処理 ⇒ 焼却処分  
 作業期間 5月から10月までの6カ月間

問合せ先 市役所市民環境課環境衛生担当 TEL(23)6111番 内線2127・2128